

学校名：飯塚市立飯塚第一中学校

1. 単元名「伝統文化に親しむ」おくのほそ道 5 / 7 時間 授業者：世取 綾香【6組】
6 / 7 時間 授業者：上尾 智美【3組】

2. 授業のねらい

本単元は、中学校の古典学習の仕上げにふさわしく、日本を代表する有名な作品を配置している。特に「おくのほそ道」は、日本の紀行文の最高峰と言える作品である。この作品は、俳句を紹介する前に地の文が書かれているのが特徴だが、生徒達が地の文の内容を深く読み取ることで、俳句が一層深みのあるものとして存在感を増していくという構成になっている。歴史的背景に注意したり、表現の特徴やその効果について捉えたりすることで、作品をより深く味わい、我が国の伝統的な言語文化やその世界に親しむ態度を身につけることをねらいとしている。

平成30年度の全国学力・学習状況調査における「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の結果を受けて、指導改善のポイントとして「語感を磨き語彙を豊かにする指導の工夫」があげられている。今回、本学年も、この領域における課題の大きさが顕著となっている。

そこで、指導にあたっては、地の文と俳句が相互に作用して文学的価値を高めていることを踏まえ、それぞれの場面に配されている俳句は、その場面の内容や心情を集約したものであるという点に着目させる。まず、「おくのほそ道」全体を貫く芭蕉の人生観、とりわけ「旅」への思いが色濃く示された章（冒頭）において、芭蕉の「旅」への思いを想像させる。その後、「平泉」の章において、平泉の歴史的背景を踏まえ、「おくのほそ道」の文体の特徴でもある俳句を手がかりに、芭蕉の思いに迫らせたい。

「平泉」の章では、はじめに、教科書に掲載されている「奥州藤原氏の栄華と、義経の最期」や資料プリントで平泉の歴史的背景を確認する。それを踏まえ、平泉で詠まれた三句の俳句を隠した地の文を学習する。その後、芭蕉の思いを想像しながら生徒自らが俳句を作成する。次に、作成した俳句と実際に詠まれた俳句と比較し、視点や描写の共通点・相違点を整理し、「おくのほそ道」の俳句に込められた芭蕉の思いに迫らせ、「人生の無常・はかなさ」「古人の心を求める思いや回顧」「旅への思い」などについて捉えることができるようにする。その際、生徒が作成した俳句と実際に詠まれた俳句三句を比較する過程で「知識構成型ジグソー法」を取り入れ、各エキスパートで、自分が作成した俳句をもとにベン図を使って比較・討論させることで、生徒の思考力・創造力を高め、芭蕉の思いに迫らせたい。資料を工夫して、自分の持つ「旅」のイメージなどを大切にしたい俳句を作成させ、エキスパート活動で作品中の俳句と比較しながら考えを深めさせ、ジグソー活動では、マトリクスを活用して活発な意見交流ができるように仕組んでいきたい。次時の学習において、作成したワークシートや、使用した資料を活用させながら、「おくのほそ道」に込められた芭蕉の思いについて、自分の考えを整理し、文章にまとめることができるようにさせたい。

【5 / 7の主眼】6組

芭蕉の思いを想像して作成した俳句をもとに、芭蕉のものの見方や考え方について自分の考えを持ち、ジグソー活動に話す内容をワークシートにまとめることができる。

【6 / 7の主眼】3組

芭蕉の思いを想像して作成した俳句をもとに、芭蕉のものの見方や考え方について自分の考えを持ち、それをワークシートにまとめることができる。

3. 単元計画 ⇒ 別紙、単元シートで提案。

4. 上記の一連の学習で目指すゴール

「おくのほそ道」の学習において、芭蕉の思いを想像して作成した俳句をもとに、芭蕉が旅や人生に寄せるものの見方や考え方への理解を深め、作品に込めた芭蕉の思いについて、自分の考えをもち、文章にまとめることができる。

5. 生徒の既有知識、学習の予想

これまでに生徒達は古典学習において、「竹取物語（冒頭）」「枕草子（第一段）」「平家物語（冒頭）」「徒然草（序段）」の暗唱、「平家物語（扇の的）」の音読を経験している。また、第二単元「俳句の可能性」「俳句十六句」において、俳句の学習をしており、俳句誕生の元となった芭蕉の作風に触れることは生徒達にとって比較的興味を示す内容であると考えられる。しかし、古典学習に関するアンケートでは、解釈の難しさや、読みや暗唱への抵抗を多くの生徒があげている実態がある。さらに、自分の思いや考えを表現することへ苦手意識を持つ生徒が大変多い。全国学力・学習状況調査においても、どの領域よりも、古典を含む領域において、正答率が低く、全国との差が大きい。

また本単元との関連から、三大和歌集や、松尾芭蕉、奥州藤原氏の歴史的背景、平泉・旅についてのイメージマップなどの事前調査を行ったが、知識の不十分さが見受けられた。これらのことから、歴史的背景を踏まえた上で地の文を理解することにとどまらず、思考力・創造力を高め、俳句の効果や芭蕉の思いに迫らせることは、生徒たちにとっておそらく難しい活動であると思われる。

6. 期待する解の要素（本時の最後に生徒が上記の課題に答えるとき、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための基準）

課題【平泉で詠んだ俳句に込められた思いとは？】の答えとして期待する例

- ・人生のはかなさ 無常観 ・歴史を回顧する気持ち
- ・悠久の自然への感動・たくましさ・賛美・不思議 ・自然や人生への詠嘆
- ・変わるものと変わらないものへ思いを巡らしている。（不易流行）

自然の営みは変わらず続いているが、人間の営みははかないものである。（A・Bの俳句から）
しかし、人間の営みにも、変わるものと変わらないものがあるのだという思い。（Cの俳句から）

【5／7の評価基準】 6組

A	B	C
自作の俳句と「おくのほそ道」で詠まれた句を比較して、無常観を踏まえ、自然と人生の対比により際立ってくる芭蕉の思いやものの見方・考え方に気づいたうえで自分の考えを記述することが出来ている。	自作の俳句と「おくのほそ道」で詠まれた句を比較し、無常観を踏まえ、芭蕉の思いに気づいたうえで自分の考えを記述することが出来ている。	自作の俳句と「おくのほそ道」で詠まれた句を比較し、無常観を踏まえた芭蕉の思いを十分に記述することが出来ていない。

【6／7の評価基準】 3組

A	B	C
平泉の場面で描かれている人間や自然、人生についての芭蕉のものの見方や考え方をとらえ、自分の考えをワークシートに書いている。さらに芭蕉にとっての「旅」の意味や目的についても記述している。	平泉の場面で描かれている人間や自然、人生についての芭蕉のものの見方や考え方をとらえ、自分の考えをワークシートに書いている。	平泉の場面で描かれている人間や自然、人生についての芭蕉のものの見方や考え方について、自分の考えを十分に記述することができていない。

時間	学習活動	支援等
10分	1 課題を確認する。	○前時に個人で考えた俳句（エキスパート活動につながるA～Cのいずれか一句）を確認させ、本時の課題を提示する。その際、この作成した俳句と比較することで課題解決に向かうことを意識させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <課題>「平泉で詠んだ俳句に込められた芭蕉の思いとは？」 </div>		
20分	2 平泉で詠まれた俳句を知り、自分が作成した俳句との比較をする。（個）	○作中の芭蕉の俳句については、正しく解釈できるように読み味わわせる。その上で、自分の俳句との比較において、芭蕉の思いを捉えさせる。 ○エキスパート活動でのベン図作成に役立つように、自分の考えをワークシートに書き込ませる。
20分	3 エキスパート活動 ・エキスパートA 【俳句Aに込められた芭蕉の思いは？】 前時に作成した俳句と芭蕉の俳句「夏草や兵どもが夢の跡」を比較することで、芭蕉がこの句に込めた思いをつかもう。 ・エキスパートB 【俳句Bからつかめる芭蕉の思いは？】 前時に作成した俳句と曾良の俳句「卯の花に兼房見ゆる白毛かな」を比較し、曾良がこの句に込めた思いを通して、芭蕉の思いをつかもう。 ・エキスパートC 【俳句Cに込められた芭蕉の思いは？】 前時に作成した俳句と芭蕉の俳句「五月雨の降り残してや光堂」を比較することで、芭蕉がこの句に込めた思いをつかもう。 4 単元シートに、本時の振り返りを記入し、次時の学習内容を確認する。	○自分が作成した俳句と比較させることで気づいた点を出し合わせ、ベン図を活用して、共通点や相違点を整理させる。 ○エキスパートAでは、俳句に表れている無常観を捉えやすいが、それを際立たせている「夏草」の存在に気づかせるために切れ字「や」に着目させる。 ○エキスパートBは、芭蕉の作品ではないが、弟子の曾良の優れた一句である。芭蕉の思いについて考えさせるため、芭蕉の句に呼応する形で詠まれていることに着目させる。 ○エキスパートCは、「無常観」や「人間の営みのはかなさ」とは、対照的な「変わらないもの」を詠んでいるが、「光堂が残ったのはなぜか」という補助発問により、それは「人間の営みの中の変わらないもの」であることに気づかせる。 ○課題について考えを深めるために単元シートを用いて、次時はジグソー活動、クロストーク活動を行うことを伝える。

時間	学習活動	支援等
5分	1 前時の学習の振り返りをし、課題の確認をする。	○前時に各エキスパート班で考えた内容を想起させ、ジグソー班のメンバーに説明するとともに、マトリクスを活用しながら意見交流を活発に行わせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <課題>「平泉で詠んだ俳句に込められた芭蕉の思いとは？」 </div>		
20分	2 ジグソー活動 (1) エキスパートで学んだことを報告し合い、課題「平泉で詠んだ俳句に込められた芭蕉の思いとは？」というについて意見を交流する。 (2) グループで課題に対する考えをまとめ、自分の考えとともにワークシートに書き込む。 (3) グループで、課題に対して出した考えを、掲示用の短冊用紙にまとめ、黒板に掲示する。	○A・B句の、対比によって際立ってくる「変わらないもの」と「変わるもの」(変わらないもの＝自然の営み、変わるもの＝人間の営み)という捉えに、Cの句の人間の営みの中にある「変わらないもの」が加わることにより、平泉の地で詠まれた句について広がりや深みをもって芭蕉の思いを捉えさせる。 ○この段階では、完全な文章になっていることを求めず、話し合いの中で出されたキーワードとなる語を書かせ、その根拠を説明できるようにさせる。
15分	3 クロストーク活動 (1) 机を列に戻し、各ジグソー班で話し合ったことを発表する。 (2) 発表について質問をしたり、自分の意見を発表したりする。	○発表においては、キーワードだけの発表にならず、説明の際にその根拠を明確に説明させる。 ○聞くときは、発表内容が課題に対する答えになっているか、また、自分の考えと比較して、メモなどを取りながら聞くようにさせる。 ○他者の考えを聞く中で、自分の考えの深まりや、新たな気づきなどをワークシートに記入させ、積極的に発表させる。
10分	4 個に戻り、課題に対する考えを書く。 5 単元シートに、本時の振り返りを記入し、次時の学習内容を確認する。	○ワークシートやメモ、意見交換の内容をもとに学習を振り返り、本時の課題に対する個人の考えを記入させる。 ○次時は「おくのほそ道」の学習のまとめとして、この作品に込めた芭蕉の思いについて、400字程度の文章にまとめることを、単元シートを用いて予告し、次時に備えさせる。

8. 各エキスパート・ジグソー＜対象の生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために各エキスパート・ジグソーで押さえたいポイント、そのために扱う内容活動＞

【平泉で詠んだ俳句に込められた芭蕉の思いとは？】

A 俳句Aに込められた芭蕉の思いは？

- ・無常観 ・人間の営みのはかなさ ・歴史を回顧する気持ち ・人生のはかなさ
- ・悠久の自然への感動・たくましさ・賛美（自然の営み） ・自然や人生への詠嘆

B 俳句Bからつかめる芭蕉の思いは？

- ・人間の営みのはかなさ ・歴史を回顧する気持ち・人生のはかなさ・自然や人生への詠嘆

C 俳句Cに込められた芭蕉の思いは？

- ・変わらないもの ・本来なら朽ちていたものと出会えた不思議
- ・人間の営みの中でも変わるものと変わらないものがあるとの思い

エキスパート活動では、しっかりとした地の文の理解をもとに、自作の俳句と比較させながら思考や対話をさせていきたい。

○エキスパートAは、比較的「無常観」「人間の営みのはかなさ」を捉えやすい芭蕉の句である。そこで、その無常観を際立たせているものが、「悠久の自然」「変わらないものの姿」であることに気づかせたい。

同じくエキスパートBも、「無常観」「人間の営みのはかなさ」であるが、この句の作者は、芭蕉に随行した曾良である。この句も佳句であると評価される句である。芭蕉の句に呼応した形で詠まれた句であることを踏まえた上で、曾良の視点を通して、芭蕉の思いを捉えるという難しさがある。

エキスパートCは、A・Bの句とは、対照的な内容である。長い歳月を経てもなお「変わらないもの」として描かれている。しかもこれは、エキスパートAでの「変わらないもの」とは違い、「人間の営み」の中での「変わらないもの」であることに着目させたい。

○ジグソー活動では、A・B句の対比によって際立ってくる「変わらないもの」と「変わるもの」、つまり、変わらないもの＝自然の営み、変わるもの＝人間の営み、という捉えに、Cの句の人間の営みの中にある「変わらないもの」が加わることにより、平泉の地で詠まれた句について広がりや深みをもって捉えさせ、芭蕉の思いに迫らせたい。

9. ジグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容

「冒頭」の叙述から理解した「人生は旅である」「漂泊の思い」「古人へのあこがれ」という内容に加え、「平泉」の場面でのエキスパート・ジグソー活動で活用した「ワークシート」の内容（無常観・変わるものと変わらないものへ思い・不易流行など）をもとに、「おくのほそ道」に込められた芭蕉の思いについて、自分の考えを400字程度の文章にまとめる。

10. グループの人数や組み方

○男女混合の3人班の13グループ

○授業開始時は、13グループのエキスパート活動をするグループとする。（前時の確認の後）

→エキスパート活動後、エキスパートA、B、CをNo.1～13のジグソー活動班の座席に移動させる。

→No.1～13のジグソー班で課題の解について考える。

→クロストークを行う。